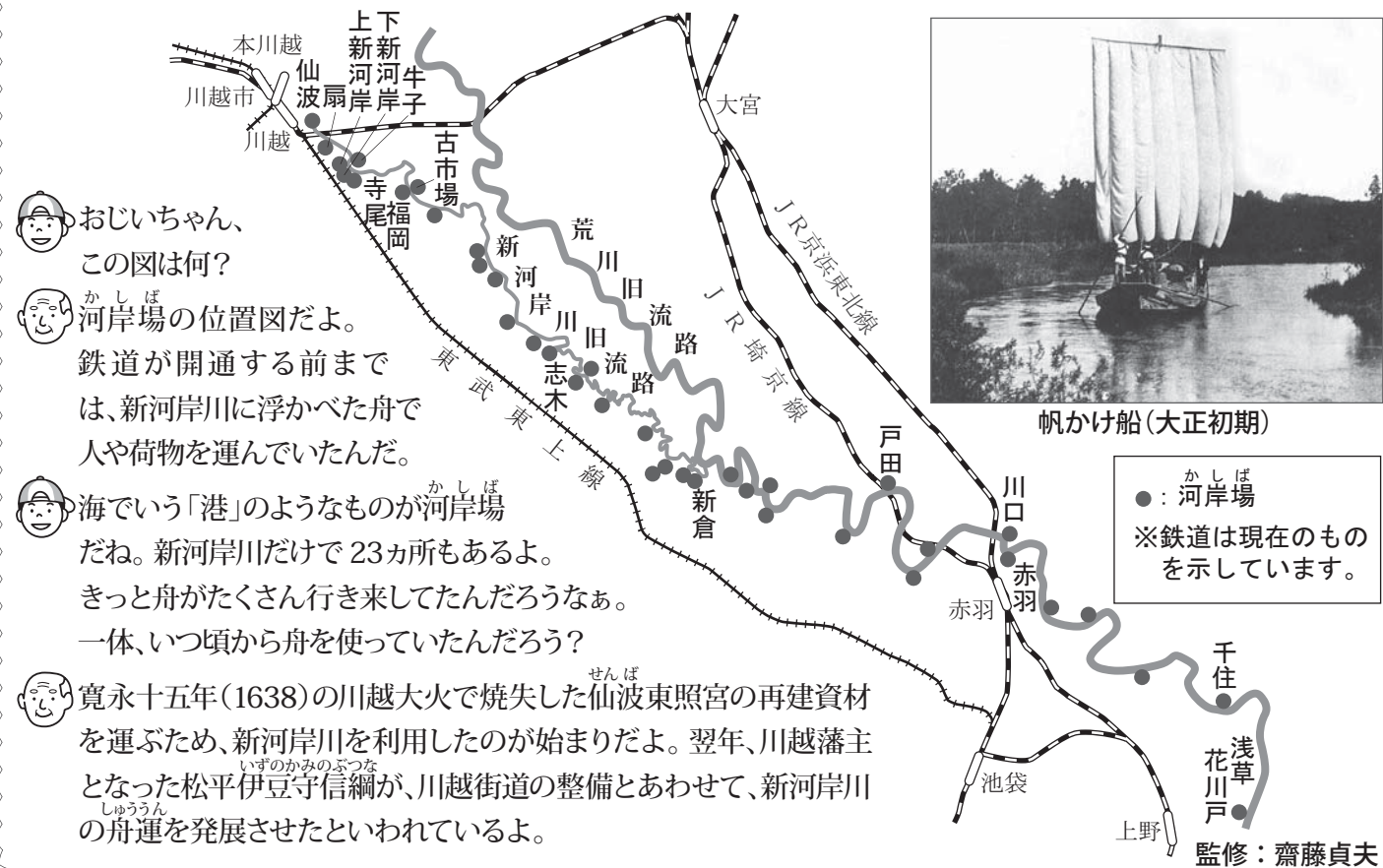


流域の川をたずねて (2) ～新河岸川は舟の道だった～



帆かけ船(大正初期)

●：河岸場
※鉄道は現在のものを示しています。

監修：齋藤貞夫

事務局だより

立秋を迎えてなお残暑が厳しいこの頃ですが、夜には虫の音が聞こえるようになりました。秋はすぐそこまでやってきているようです。夏の間、新河岸川流域の各河川で開催された川まつりの様子は「里川」54号でお伝えします。皆さんお楽しみに！

第3回新河岸川流域川づくり連絡会(6月16日開催)

6月に開催された第3回連絡会では、「新河岸川フォーラム」や「流域の資源」について活発な意見交換がなされました。詳しい話し合いの内容は連絡会HP (<http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>)でも確認できます。



第3回川づくり連絡会の様子

見学会へのご参加、ありがとうございました！

アンケートによれば、参加者のほぼ全員が好感を持っており、満足度が高いイベントであったことがうかがえました。また、事前に行った「魚道」の勉強会

(意見交換会)は、有意義だったとの評価をいただきました。また、行程の遅れにより見学地点の変更を余儀なくされました。運営面でご期待に添えなかったところを反省し、次に生かしていきたいと思ひます。

川づくり連絡会に参加してみませんか？

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は、下記事務局までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

■連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>
E-mail shingashi@ara.go.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん



VOL. 53

発行●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
発行日●平成20年(2008)8月29日



切り絵 毛利将範

目次

- P2 新河岸川流域で知ろう・学ぼう
第15回 新河岸川流域川づくり見学会
・交流会 報告
- P5 特集：もっと愛される川へ
～市民・行政協働による川づくり
の理想を目指して～
- P7 イベント・お知らせ
- P8 連載：流域の川をたずねて(2)・事務局便り

この夏は、限られた範囲で、短時間に集中して大雨が降る「ゲリラ豪雨」が各地で頻発しています。局所的であるため予報も出しにくく、河川では予想外の増水に見舞われることもあります。川に入る際は、気象情報や水位の情報に十分気を配りましょう。

今号では、15回目となる新河岸川流域川づくり見学会・交流会の模様を詳しくお伝えします。また、行政と地域の連携・協働による川づくりが始まった埼玉県の話を取りあげます。



新河岸川流域で知ろう・学ぼう！

～魚がのぼりやすい川づくり～

報告

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

第15回 新河岸川流域川づくり見学会・交流会



今年度の新河岸川流域川づくり連絡会では、「魚道」に関する勉強会を行っています。この流れを受けて、流域内の魚道などを見て学ぶ、第15回新河岸川流域川づくり見学会・交流会を開催しました。開催当日は、講師の方々より、詳しい解説をいただきました。今号では当日の様子をお伝えするとともに解説の要点をご紹介します。

開会

朝霞市の埼玉県朝霞県土整備事務所(以下県土事務所)の会議室に、参加者と講師・スタッフなど約30名が集まり、午前10時過ぎに開会となりました。県土事務所からは、市民と行政の話し合いの結果、堤防を高くせずに川底全体を掘り下げる、河道内の砂州を残す、桜並木を保全する、などを実現させた黒目川での多自然川づくりの説明がありました。



県土事務所での開会式

①黒目川

▶ P4 に関連記事

県土事務所から黒目川に沿って1.7km先の黒目橋下の魚道(床止工)を目指して歩きました。黒目川に親しむ会の小林一己さんと県土事務所が同行し、川の自然に配慮した工法と従来型の工法の違いや、市民によって手入れされている堤防上の桜並木を見学しました。また、魚道では、遊泳力が強い魚も弱い魚も川をのぼれるよう、左岸から右岸にかけて床止工に傾斜をつけ、流速に変化をもたせているなどの説明がありました。



黒目橋の下で魚道を見学

②東川・柳瀬川合流点

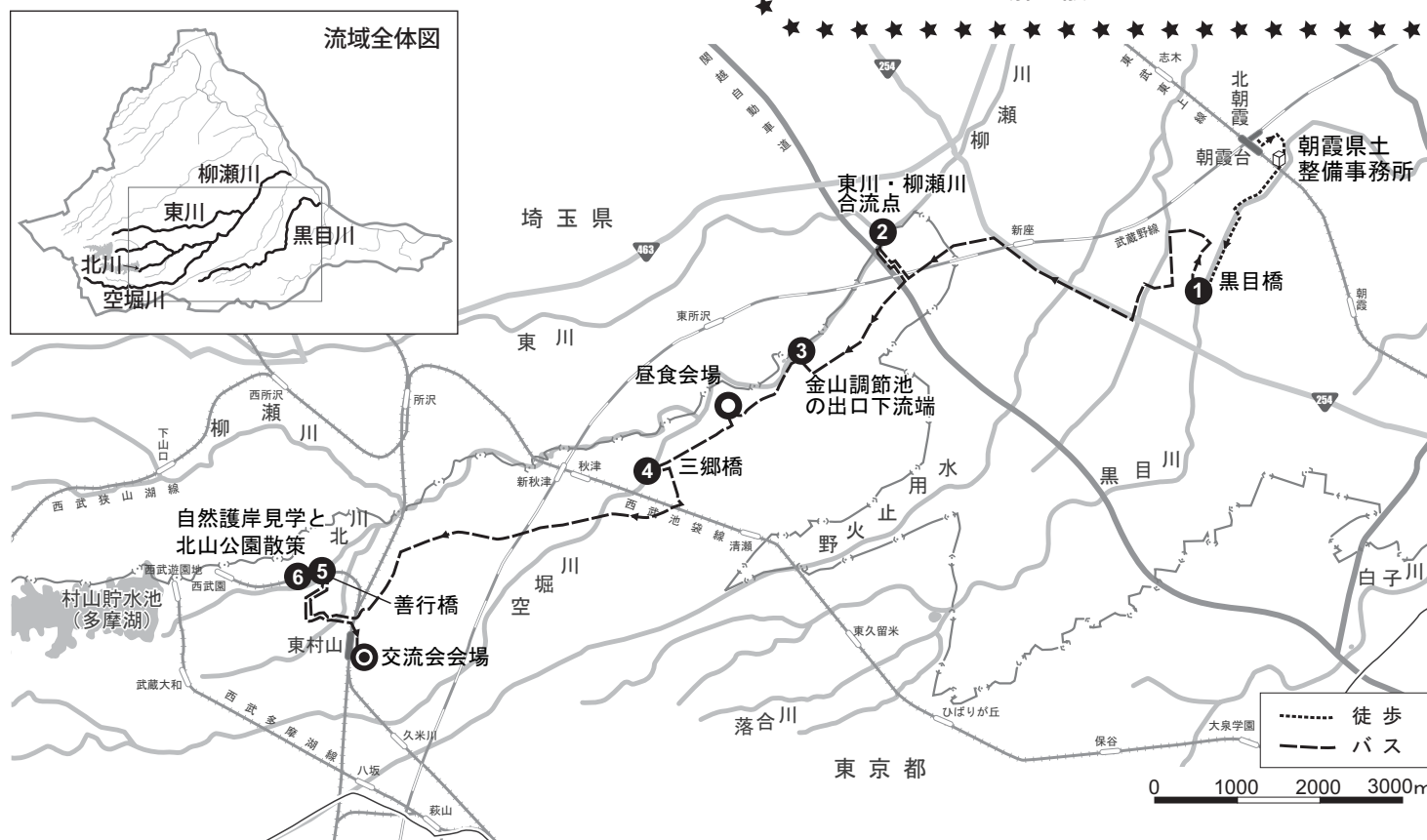
この地点には、腰ほどの高さで垂直に水が落ちる落差工があります。落差工には、河床低下を防ぐ役目があります。もし、落差工が設置されず河床低下が進むと、いずれ護岸が崩れてしまう可能性があります。周辺の工場や宅地を守るため、治水上は必要な施設ですが、この形・規模の落差の場合、遊泳力の弱い魚は川をのぼることが困難な状況です。



東川・柳瀬川合流点の落差工

★ ★当日の行程(平成20年6月28日(土)開催)★ ★ ★

- ★ 9:50 東武東上線朝霞台駅前集合
- ★ 10:00-10:25 開会式(埼玉県朝霞県土整備事務所)
- ★ 10:25-11:25 歩 黒目川(歩きながらの見学)
- ★ 11:25-11:35 歩 ①黒目川黒目橋下魚道見学
- ★ 11:55-12:10 歩 ②東川・柳瀬川合流点落差工見学
- ★ 12:20-12:30 歩 ③金山調節池出口下流端見学
- ★ 12:40-13:10 昼食(清瀬市中里地域市民センター)
- ★ 13:15-13:17 歩 ④三郷橋(バス中から見学)
- ★ 14:00-14:30 歩 ⑤善行橋下魚道⑥北山公園自然護岸見学
- ★ 14:45-16:30 交流会(東村山市立中央公民館)
- ★ 16:30 解散



③金山調節池の出口下流端 ④三郷橋

金山調節池の出口下流端には、スロープ状に水が流れ落ちる斜路式の落差があります。ここでは、斜路の下方へ行くに従い、流速が増すため、魚がこの地点より上流へのぼることが困難です。三郷橋の魚道は、階段式魚道の一形式であるアイスハーバー式で、中央に流れを遮る隔壁を設け、緩流部を作っています。また、階段の隔壁には潜孔を設けています。水位変動の影響を受けやすく、土砂によって穴が塞がれることもあります。



金山調節池出口の斜路式落差工

⑤善行橋

▶ P4 に関連記事

⑥自然護岸見学と北山公園散策

狭山丘陵のふもとにある北山公園では、善行橋下の魚道と、北川の自然護岸を見学しました。善行橋の上では、粗石付双斜曲面型魚道を間近に見ながら、設計者である君塚芳輝先生から、布製の型枠にモルタルを注入し立体成形した魚道の工法などについての説明がありました。また北川かつぱの会の三島悟さんからは、2期に渡る工事で自然護岸を実現した経緯の説明がありました。



善行橋の上から魚道を見学

交流会

話題提供

▶ P4 に関連記事

淡水魚類研究者の君塚 芳輝先生からは、スライドを使って、全国各地の河川に設置された魚道が紹介され、その長所短所がわかりやすく説明されました。北川かつぱの会の三島さんからは、北川の川づくりに関して、ワークショップなどを取り入れ、自然護岸や魚道設置に至ったかつぱの会や市民の活動の経緯が紹介されました。

質疑応答

Q: 魚によって溯上の仕方がいろいろありますが、中小河川の魚道作りの場合、魚の遊泳力を考慮し、魚が泳いで溯上しやすいように設計するのがコツなのでしょうか？

A: 魚は本来水中を泳いで溯るべきものであるため、遊泳することを前提に設計する必要があります。魚がジャンプするのは非常の場合であって、魚にとって好ましいことではありません。

Q: 魚が溯上できる流速はどのくらいでしょうか？

A: 同じ魚種でも個体によって能力差があるため一概に溯上可能な流速を決めることはできません。魚道を作る際は、平水でその川の近くで自然にできている早瀬の流速よりも早い流れにしないのが理想です。

Q: 落差工が多い場合、魚の溯上で工夫できることがありますか？

A: 既存の落差工を活用する場合、川の流れに合わせて横断面上に三角形の切込みを入れることが考えられます。

Q: 高水敷についてどう考えていますか？

A: 高水敷を低水護岸で固定すると川幅が変動しづらくなります。治水を考慮した上で、市民への川の開放と低水路の変動とが両立できることが望ましいです。

第15回 新河岸川流域川づくり見学会・交流会 解説の要点

◆黒目川の市民・行政協働の川づくりと魚道

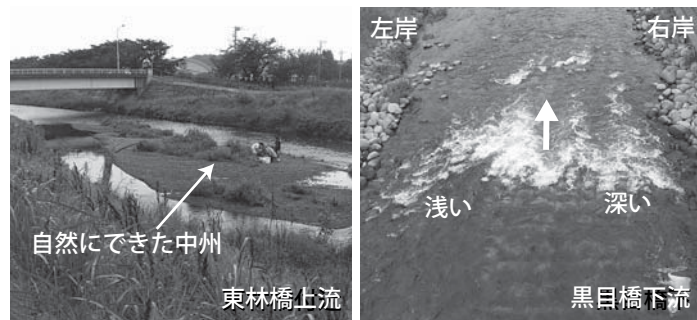
埼玉県朝霞県土整備事務所、黒目川に親しむ会 小林さんのお話より

《黒目川の改修》（東武東上線から黒目橋までの1.7km区間）

- ・当初計画は
 - 河床の一部のみ掘り下げる ○流路を狭くする ○50cm～2m 堤防を高くする 等
- ・市民からの要望で検討会・現地見学会を実施⇒施工
 - 箆マット護岸+覆土を採用し従来の植生に配慮した○堤防を高くしない○護岸の法面勾配を場所によって変えるなど、流れに変化がでるように流路の幅を確保した○水際にテラスを設置することで中州、河畔林、流れの湾曲などの自然発生を促した

《黒目川の魚道(魚が溯上できる床止め)》（黒目橋下）

- ・河床の掘り下げにより 50cm 程度の段差が発生した⇒改修区間の上流端に川底を固定するための床止めを作る必要あり
- ・床止めの施工では擬岩ブロックを並べた⇒ブロックの後ろに流れの緩やかな場所ができ、魚の休憩場所となった
- ・右岸を深く、左岸を浅くして水の勢いを変化させた⇒遊泳力や大きさに応じて魚が経路を選択できる



現在の黒目川の様子

◆「未来の川へ」北川復元プラン策定とその実現

北川かっぱの会 三島さんのお話より

《対話と協働へ向けて》

○北山公園一帯の整備では、平成2年より、主に「整備計画における自然環境への配慮」、「事業の決定から施工までの計画の進め方」について、行政と市民に考え方の違いが見られるようになった ○両者互いの考えを伝えて、協働の体制を作るまでは約4～5年かかった ○平成7年、かっぱの会設立。その後、流域の調査等を基に川づくり、公園づくりのプランをまとめ上げた成果「未来の川へ—北川復元プラン」を刊行した ○プランを行政へ直接提案し、市民と行政が対話する場（「水と緑の市民懇談会」、井戸端会議をもじった「川端会議」）を設置した ○川端会議で、約1～2年かけて認識を共有し、平成15～17年、自然護岸化と魚道の工事が実現した

◆魚道の基本的な考え方

淡水魚類研究者君塚先生のお話より

《魚道設置に際して考慮すべき点》

○魚の種類、サイズ、季節、溯上か降下かを想定する ○断面は三角形か円弧にして流速に変化をもたせる ○水位変動に対応できるように設計する ○土砂堆積に対応できるように設計する

以上の条件を満たすものとして以下の2形式の紹介がありました。

【粗石付双斜曲面型魚道】

○両方の掌を合わせたような曲面に玉石を埋めた立体的な形状である ○粗石によって流れの速さを抑制する ○曲面積が広がるため、多様な経路を得ることができる ○粗石の後ろに付けた窪みで魚が休憩できる○いたち川・北川の魚道では、布製型枠にモルタルを注入して成形する工法で、立体的形状を比較的簡単に作ることができる

【ハーフコーン型魚道】

○斜路上に円錐半分を2本ずつ交互に並べた形状である ○直角三角形の断面で水深によって流速を制御できる ○水田に魚をのぼらせる試みにも利用されている ○多摩川の日野用水堰右岸に日本最大幅のものが設置されている

トピックス 世界最小の魚道は？

府中市立南白糸台小学校のピオトープに幅15cmのハーフコーン型ミニ魚道があります。卒業記念として父母と子供たちが制作したもので、副落差が入っているなど、大きな魚道に劣らない造りになっています。上部のわさび田と下部の水路・水田をつないだ落差に設置されたもので、これが世界最小の魚道です。

《協働における留意点》

○担当者の異動などによりこれまで培った市民と行政の共通認識がずれてしまう ○地方自治体の環境政策は首長の意欲・取り組み姿勢の影響を受けやすい ○市民と行政間に緊張関係がなくなると、形式的なパートナーシップに陥りやすい

淡水魚類研究者君塚先生のお話より

《魚道の溯上調査》

○魚道設置から3年後の平成19年に魚道の溯上調査を実施したところ、海からの溯上種(モクズガニ)も確認された(甲殻類が非常に多いのが特徴)

○溯上調査は、かっぱの会会員の努力と市の協力(定置網の購入や調査の許可申請)があつてできたことであった

もっと愛される川へ ～市民・行政協働による川づくりの理想を目指して～

埼玉県（以下、県）は県土に占める河川面積の割合（3.9%）が日本一です。「日本一の川」という資産を活かし、誰もが川に愛着を持ちふるさとを実感できる「川の国 埼玉」の実現へ——県では、平成19年11月の「川の再生基本方針」制定を受け、今年を「川の再生元年」と位置付けています。川を共有資産としてとらえ、地域による持続的・自主的な改善行動、維持管理の実施を目標に据えて始まった取り組みについて、最近の話題を紹介します。

協働の川づくりへ向けた 新たな一歩！ ～第6回 新河岸川流域川づくり懇談会～

新河岸川流域川づくり懇談会は「市民と県(総合治水事務所)定期的な話し合いの場」として開催されています。今回は、県の各部署(河川砂防課・総合治水事務所・県土整備事務所・水辺再生推進室・県土づくり企画室・西部環境管理事務所)、国(荒川下流河川事務所)、市民団体18団体、コンサルタント、などの関係者が一堂に会し、広く意見交換を行う場となりました。

まず始めに各県土整備事務所より事業概要の説明があり、続いて「市民と行政の合意形成に向けたルール作り」をテーマにNPO法人全国水環境交流会代表理事の山道省三氏による講演がありました。講演では、「川の再生基本方針」^{*1}の分析を行った上で、市民と行政の合意形成に向けた提案(右記参照)の説明がありました。

講演後に行われた意見交換では、合意形成の在り方や方法に関する提案や課題など、参加者同士で様々な意見が交わされました。また、市民・行政間で日常の情報交換が重要との点では全員の意見が一致しました。

本懇談会により、市民と行政協働のルールづくりへ向けた第一歩が踏み出されたように思いました。

開催概要

◆第6回 新河岸川流域川づくり懇談会

日時：平成20年7月13日(日) 13:30～16:30

場所：朝霞市リサイクルプラザ リサイクル活動室

主催：埼玉県総合治水事務所

内容：○平成20年度事業概要の説明(各県土整備事務所)

○水環境に関する取り組みの発表(西部環境管理事務所)

○イベントのお知らせ

○講演「市民と行政の合意形成に向けたルール作り」

○意見交換



■合意形成に向けた提案（山道さんの講演より）

- ・状況に応じた合意形成の様々な段階を踏まえる
- ・市民・行政だけではなく学者や企業も巻き込む
- ・合意に至るまでのプロセスを大事にする
- ・「合意形成の場」以外のことも視野に入れる
- ・「合意形成の場」のルールをつくる

川の再生へ向けた具体的な取り組みと目標

具体的な取り組み

各地域で川の再生の気運醸成

- ・モデル事業の効果を戦略的にPR（現地見学会や研修会の開催）
- ・マスコミ等を活用した積極的な情報発信
- ・川の再生について、県内各地で議論の場を創出

水辺再生100プランの推進 モデル事業の実施 (H20～21年度の2ヵ年で実施)

- ・芝川、藤右衛門川、柳瀬川、元荒川(県土整備部)
- 東京葛西用水(農林部)でモデル事業5箇所を実施。

部局連携事業の実施

県内全域を対象とした川の再生

目標

県民誰もが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる
川の国埼玉の実現

「川の再生」県民運動として定着

※1: 埼玉県県土整備部水辺再生推進室ホームページ参照

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A08/BW00/mizube00.html>

盛り上がる 川の再生ムーブメント ～川の再生元年キャンペーン・ 河川環境団体連絡協議会設立総会～

「川の再生」の気運を高めるため、さいたま新都心駅コンコースで「川の再生元年キャンペーン」が開催されました。会場では、川のパネル展示として河川愛護団体の活動紹介パネルや、今年から始まった「水辺再生100プラン事業」モデル箇所の紹介パネルの展示がありました。また、県の「川の再生」関連部署による様々なコーナーが、さらに会場を盛り上げていました。今年の「川の再生元年キャンペーン」は、「緑のトラスト夏まつり2008」と合同開催であったため、川と緑に関する各団体が交流を図るよい機会になっていました。

なお同日、県内の河川に関わる活動を行う団体(個人)が情報交換などを行うための連絡協議会が発足しました。「川の再生基本方針」を受け、市民も積極的に「川の再生」推進に向け、動き出しています。

～新河岸川広域景観プロジェクト～

かつて舟運で栄えた新河岸川周辺には歴史ある景観が存在します。そこで県は、より多くの人々が《景観》への興味を持ち、美しい《景観》を先導することを目的に新河岸川をモデルとしたプロジェクトを立ち上げました。今年度は、講演会、ワークショップ(景観資源の抽出)、フォーラムの開催が予定されています。

先日(8月1日)の講演会では、日本工業大学建築学科教授の伊藤庸一先生より景観の考え方やただならぬ景観の掘り起こし・活用方法など国内外の事例を用いた説明がありました。(詳細は県HP※2参照)

※2 埼玉県新河岸川広域景観プロジェクトホームページ
<http://www.pref.saitama.lg.jp/A08/B100/keikanHP/shingashitop.html>



開催概要

◆川の再生元年キャンペーン

日時：平成20年7月19日(土) 10:00～16:00

場所：さいたま新都心駅コンコース

主催：埼玉県(緑のトラスト夏まつりと共同開催)

内容：○川のパネル展示

○埼玉の川・愛県債のPR

○名水「毘沙門水」の試飲、水質実験

○農業用水のPR

○埼玉の川の魚の展示

○コバトンと写真撮影

◆河川環境団体連絡協議会設立総会

日時：平成20年7月19日(土) 13:30～15:00

場所：新都心ビジネス交流プラザ

4階会議室

主催：埼玉県河川環境団体連絡協議会

(設立準備発起人)

内容：○設立趣意書・規約の提案・承認

○役員案、活動方針の検討

○参加団体名簿の作成について



開催概要

◆新河岸川広域景観プロジェクト講演会

日時：平成20年7月27日(日) 13:00～16:00

場所：和光市中央公民館 2階会議室1

主催：埼玉県県土整備部県土づくり企画室

内容：○講演「身近にあるただならぬ景観」

○新河岸川を中心に活動する団体の活動紹介

○県からのお知らせ(本プロジェクトの説明等)

○彩の国景観賞2007、川の再生事業紹介パネル展示

REPORT 第16回 やなせ川いかだラリー



ギャラリーへのパフォーマンスも見どころです

日時：平成20年7月21日(月・祝) 12:30～14:40

場所：柳瀬川(志木大橋～富士見橋)

主催：やなせ川いかだラリー実行委員会、富士見市水谷東公民館

ボーイスカウト、小学校、教職員、地域の有志などの10チームが、手作りのいかだでラリーに挑みました。ゴールまでの約1kmの間に、審査員がいかだの出来栄、操作、パフォーマンスなどを審査。優勝を飾ったのは、水谷東小学校の教職員チームの「エゴからエコへ号」でした。最後に全員で利用した河川敷のゴミを拾いました。各自、楽しい思い出を心に刻み、今年度のラリーは幕を閉じました。



イベントカレンダー



下水道処理場見学会

毎年9月10日は下水道の日です。9月10日(水)・11日(木)・12日(金)の日程で埼玉県内の水循環センターを開放し、施設見学会を行います。

と き 9月10日(水)～12日(金)

(1)10:00 (2)13:30

ところ 新河岸川水循環センター(和光市)
新河岸川上流水循環センター(川越市)

参加費 無料

主 催 (財)埼玉県下水道公社

問合せ 048-466-2400(荒川右岸支社)

・申込み 049-224-2741(滝ノ下支所)

第48回「下水道の日」作品コンクール標語募集

募集作品 日常生活で下水道に関する事を自由に発想・表現した標語 【例】「下水道 命ふきこむ 水の旅」

応募資格 埼玉県内在住、在勤、在学の人

応募方法 9月19日(金)必着で、作品、住所、氏名(ふりがな)、年齢(児童・生徒の場合は学校名、学年、組を記入)、電話番号を明記し、はがき又はEメールで応募。応募点数に制限はありませんが連名での応募はできません。

発 表 入賞者あてに10月中旬に通知

※応募作品は(社)日本下水道協会主催の「下水道いろいろコンクール」へ応募します。

作品は返却しません。作品の使用権及び著作権は、主催者に帰属するものとします。

問合せ (財)埼玉県下水道公社経営企画課作品コンクール担当

・応募先 〒338-0837 さいたま市桜区田島7-2-23

TEL:048-838-8585 Eメール:master@saitama-swg.or.jp

国土交通省からのお知らせ

荒川知水資料館(amoa)ワークショップ

荒川知水資料館(amoa)では荒川に触れることができる機会として年間を通じて様々なワークショップを開催しています。

◆「荒川防災講座 ～荒川の水害について考えよう～」

と き 平成20年9月27日(土) 13:30～16:00

(荒川知水資料館で13:00より受付開始)

と ころ 荒川知水資料館

対 象 小学生以上(小学生以下は保護者同伴 親子での参加歓迎)

内 容 もしも荒川が洪水となったら?いざという場合に

備えた心構えを養うための講座を実施し、「まるごとまちごとハザードマップ」でまちを歩いて、電柱に記載している標識を探しながら、避難場所などを探し災害時の避難場所の確認をします。

※雨天の場合は、内容を一部変更します。

募集人数 30名(定員に達し次第締め切ります)

費用 50円(保険代)

申込 はがき・電話・メール・直接資料館受付のいずれかで、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。

【受付開始】9月6日(土)



防災講座実施風景

●問合せ先●

〒115-0042
東京都北区志茂5-41-1
荒川知水資料館 ワークショップ事務局
TEL:03-3598-2134
メール:amoa-ws@ara.go.jp
HP: <http://www.ara.go.jp/amoa/>
受付時間:10:00～16:00・月曜休館
(月曜が祝日の場合は火曜休館)

※個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づき適正に取り扱います。